

2008年3月期 中間決算説明会

東洋シャッター株式会社



2007年11月

目 次



2008年3月期 中間決算概況

2008年3月期 業績計画

中期経営計画 推進状況

参考資料: 東洋シャッターについて

目 次



2008年3月期 中間決算概況

2008年3月期 業績計画

中期経営計画 推進状況

参考資料: 東洋シャッターについて

2008年3月期 中間決算のポイント

The logo for TOYO Shutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized green shutter icon between them.

前年同期比増収増益。受注実績が伸展し、受注残高も増加。

売上高

前年同期比+5.5% (計画比+0.6%)
売上高: 10,559百万円

営業利益

前年同期比+11.1% (計画比▲10.4%)
営業利益: 475百万円

中間純利益

前年同期比+617.7%
純利益: 2,280百万円

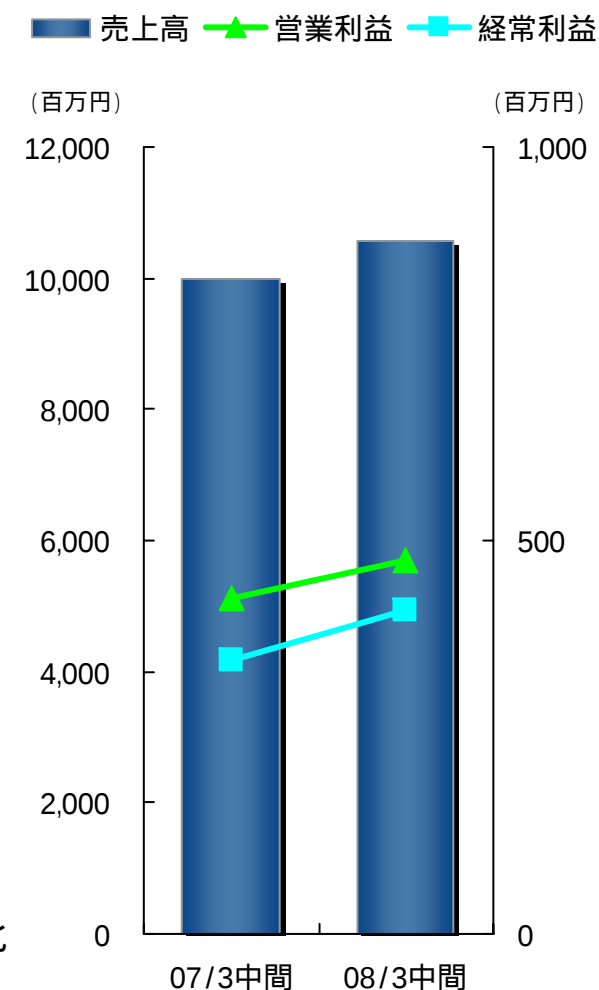
- 厚生年金基金代行返上にともなう代行返上益が1,900百万円

2008年3月期中間損益計算書の概要

TOYOShutter

(単位:百万円)

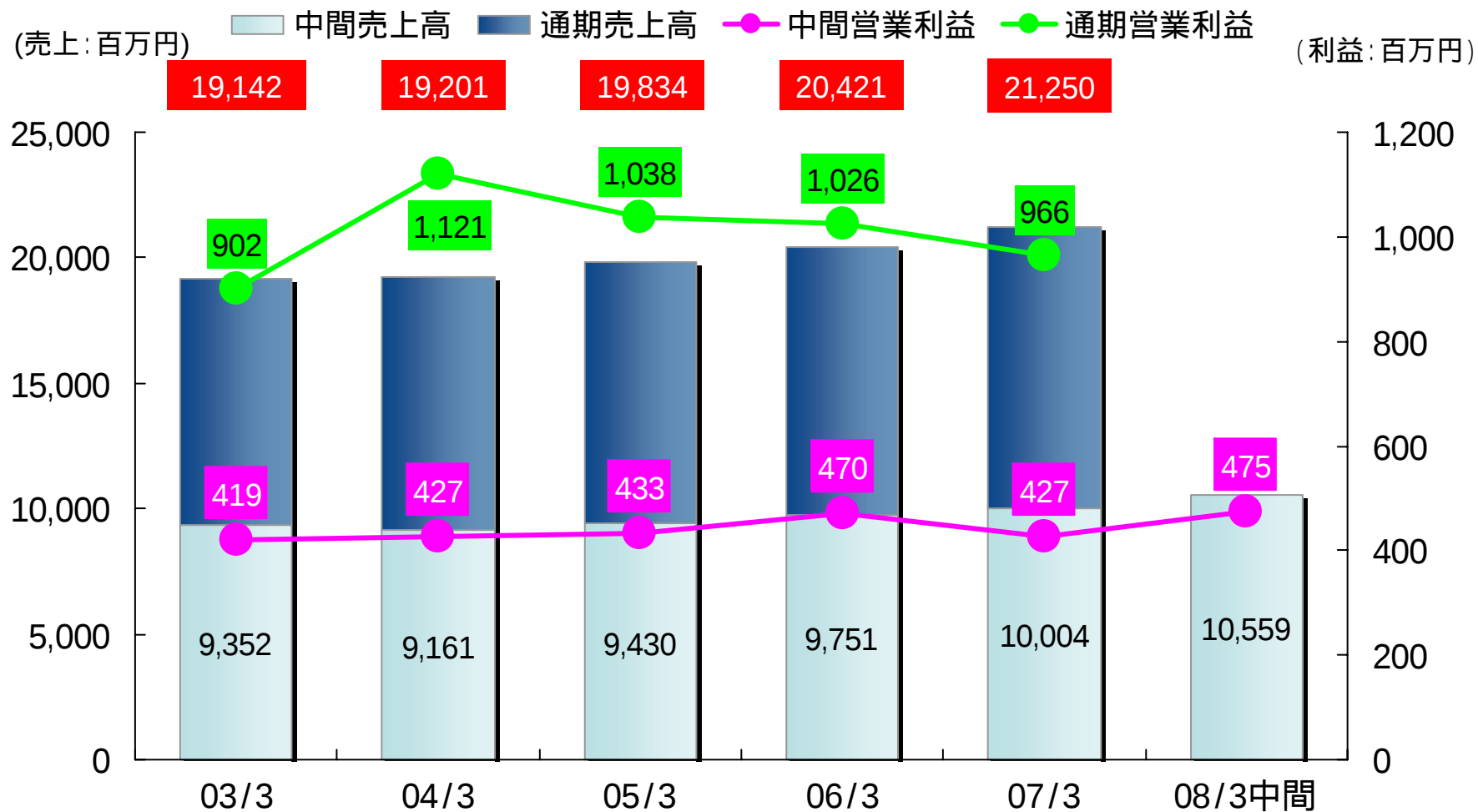
	07/3 中間	08/3中間 期初計画	08/3 中間	前年同期比 増減
売上高	10,004	10,500	10,559	5.5%
売上原価	7,396	—	7,854	6.2%
売上総利益	2,607	—	2,705	3.8%
売上総利益率	26.07%	—	25.62%	▲0.45pt
販管費	2,180	—	2,229	2.2%
営業利益	427	530	475	11.1%
営業利益率	4.28%	5.05%	4.50%	0.22pt
経常利益	347	470	410	18.1%
当期純利益	317	2,330	2,280	617.7%
減価償却費	197	—	189	▲4.1%



- 売上高: 軽量シャッターは微増だが、重量シャッターとSDが拡大し、5.5%増。
- 営業利益: 引続く原材料高を転嫁できず、また売上原価が若干上昇し計画比で55百万円の不足。

業績推移

TOYOShutter



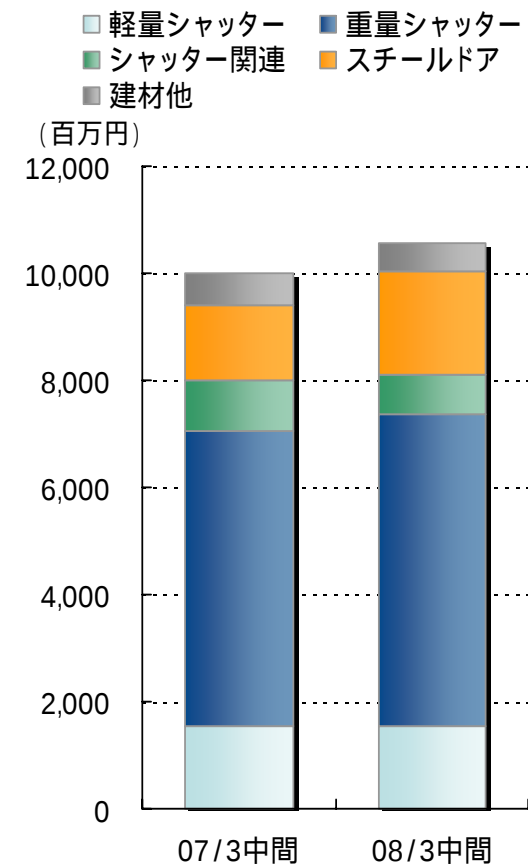
製品別売上明細

TOYOShutter

スチールドアが急増。軽量は業界全体が縮小するなかで横ばい。

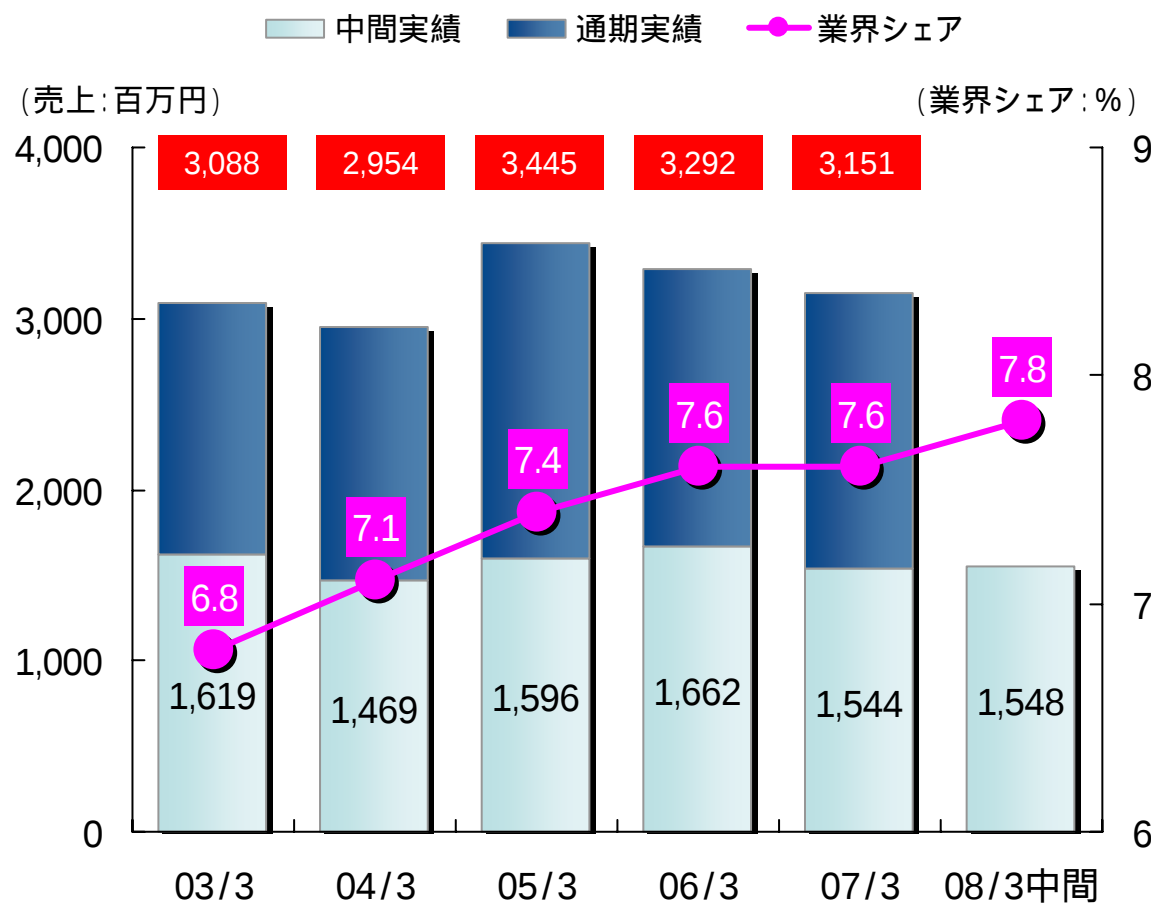
(単位:百万円)

	07/3 中間	構成比 (%)	08/3 中間	構成比 (%)	前年同期比 増減
軽量シャッター	1,544	15.4	1,548	14.7	0.3%
重量シャッター	5,509	55.1	5,817	55.1	5.6%
シャッター関連	945	9.5	756	7.2	▲ 20.0%
スチールドア	1,388	13.9	1,925	18.2	38.7%
建 材 他	616	6.1	510	4.8	▲ 17.1%
合 計	10,004	100.0	10,559	100.0	5.5%



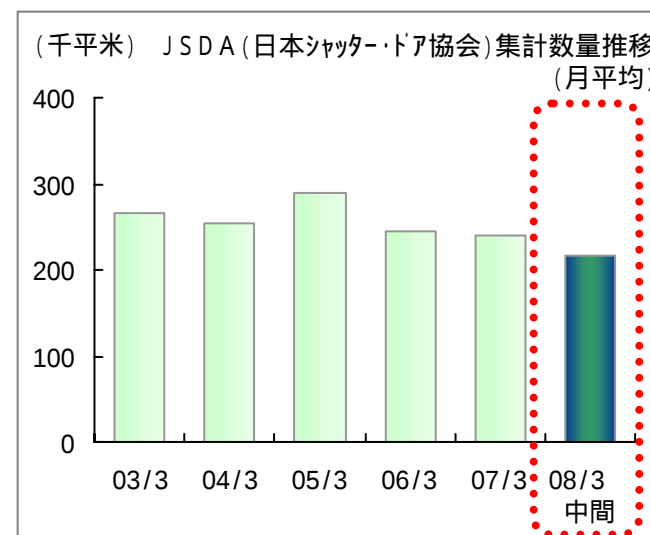
軽量シャッターの状況

TOYO Shutter



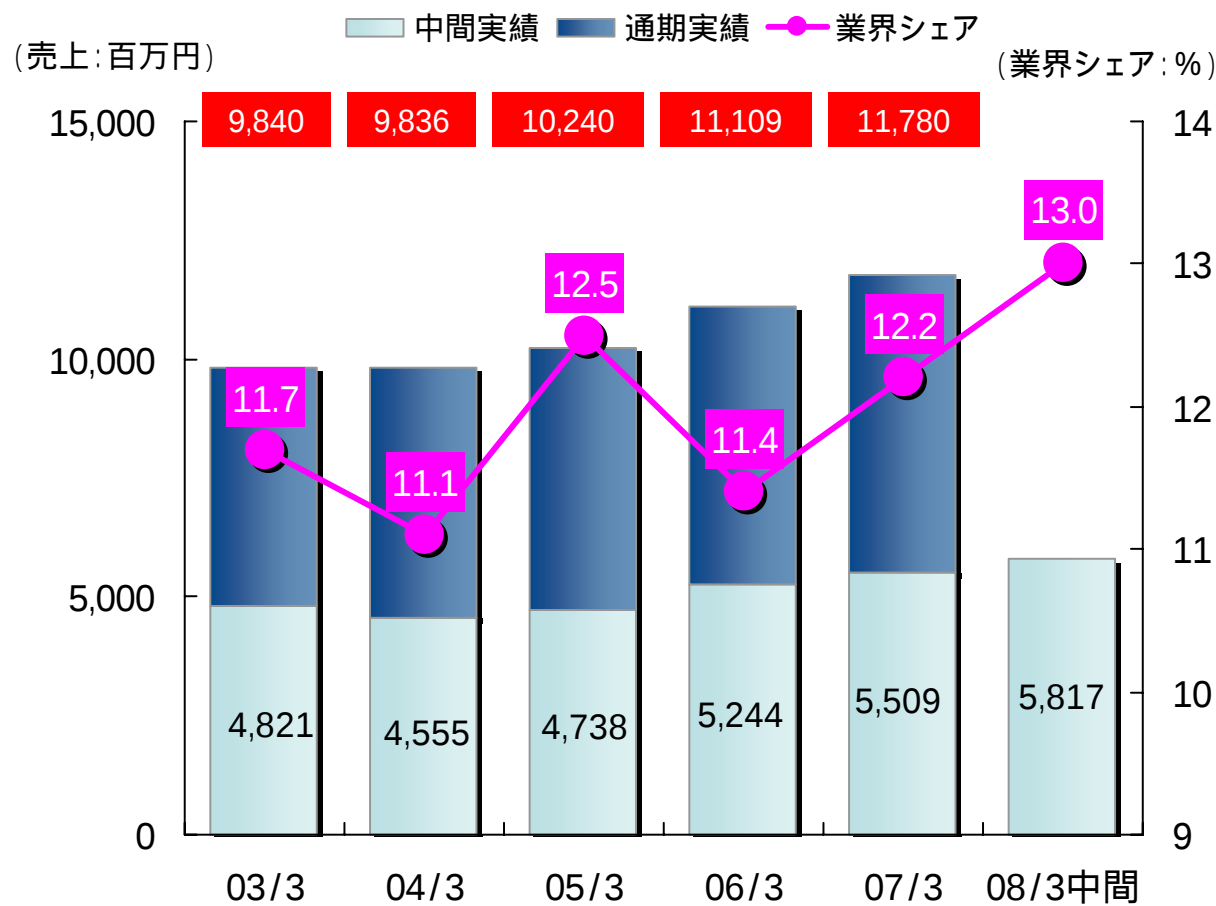
ポイント！

- 業界全体の数量は減少傾向だが、シェアは拡大中



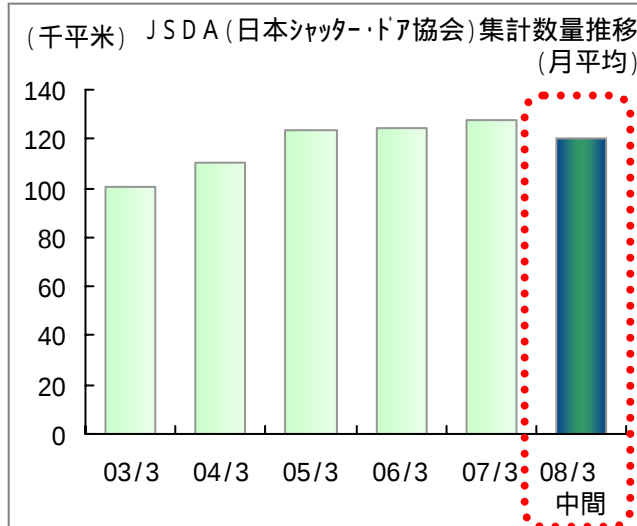
重量シャッターの状況

TOYOShutter



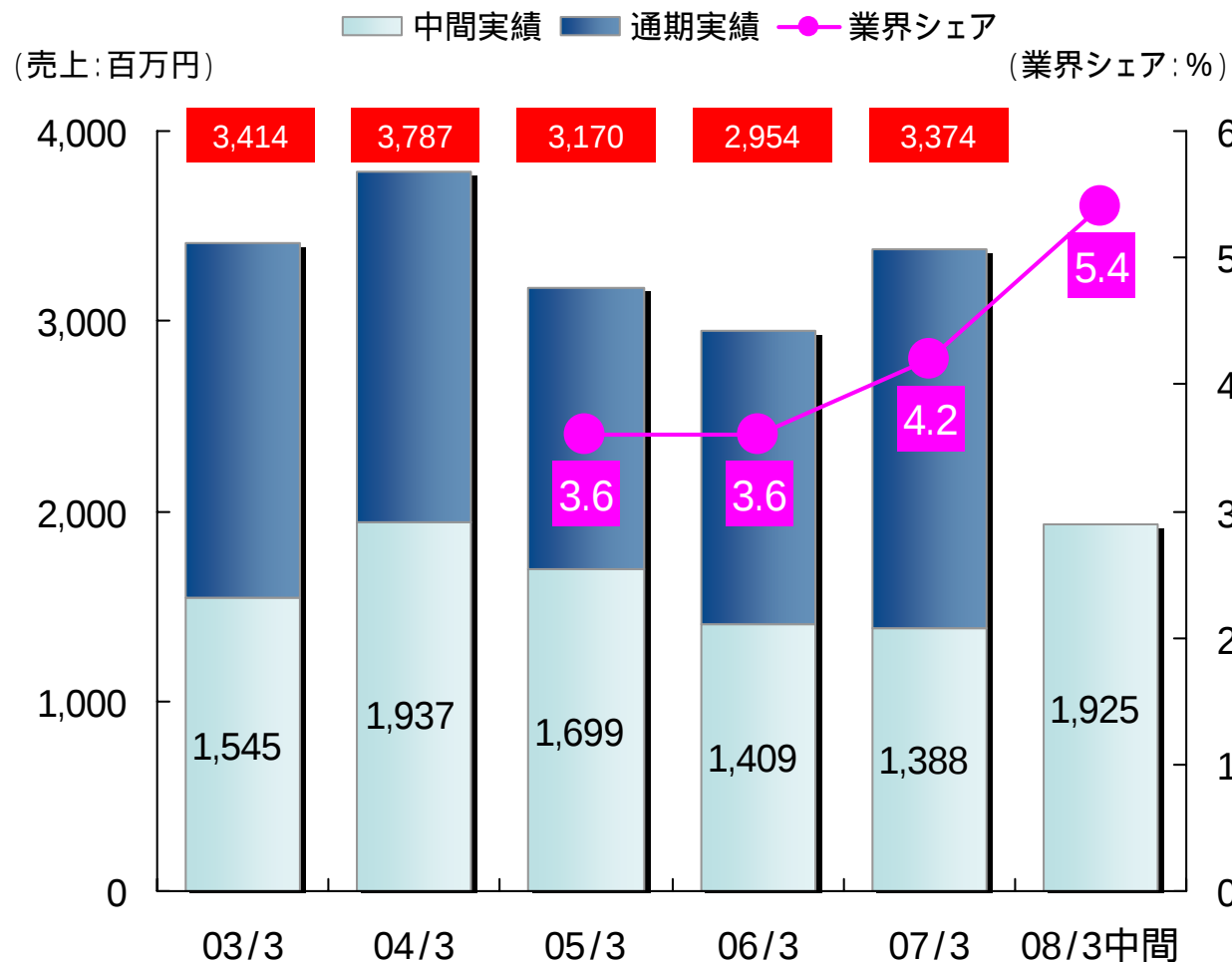
ポイント！

- まちづくり三法の改正
- ショッピングセンター、工場への売上が増加



スチールドアの状況

TOYOShutter



ポイント！

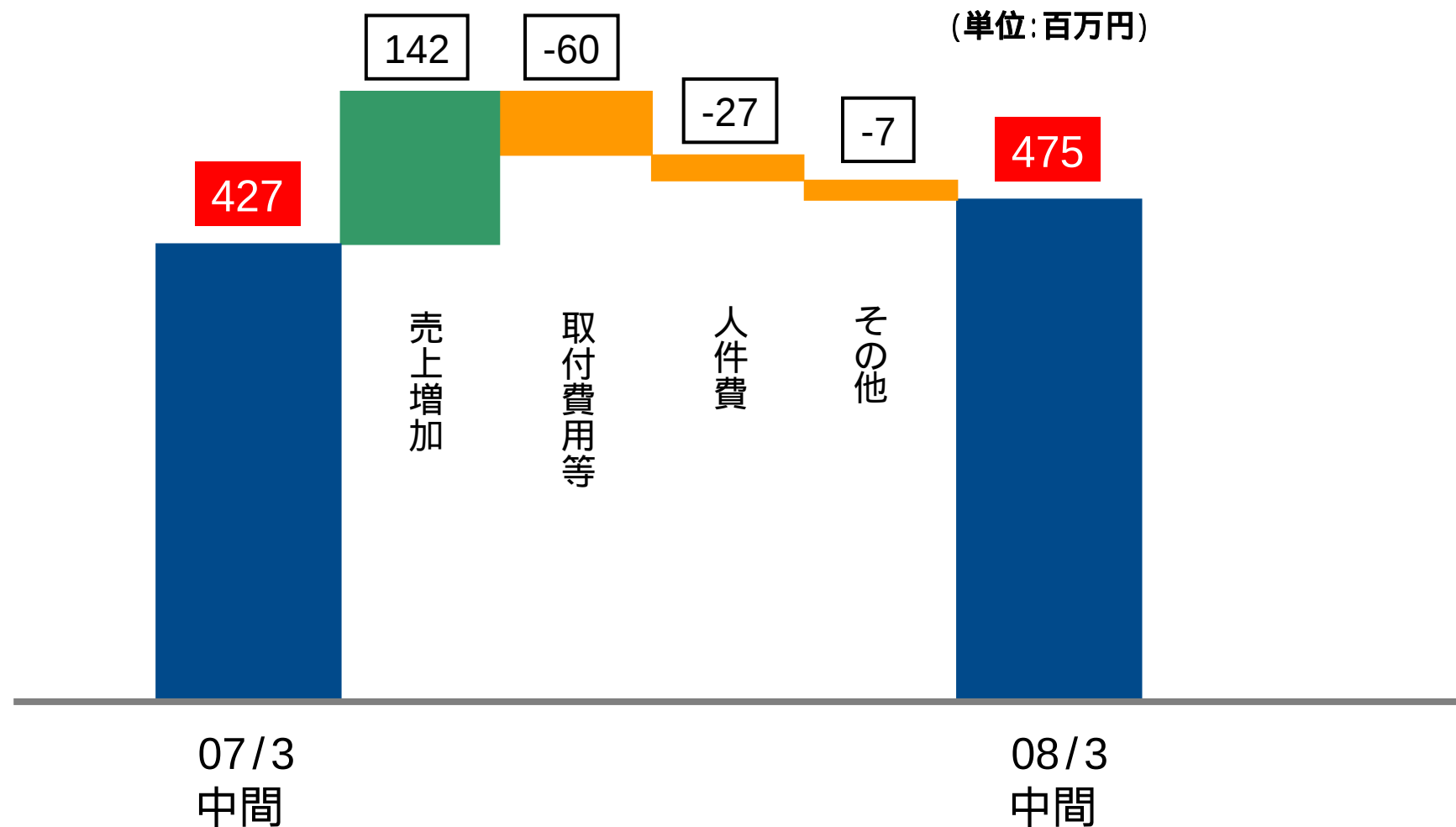
- 原材料値上がりの中で価格競争激化
- 商業施設及び学校を中心に伸長
- 営業強化対象のセグメント



劇場扉

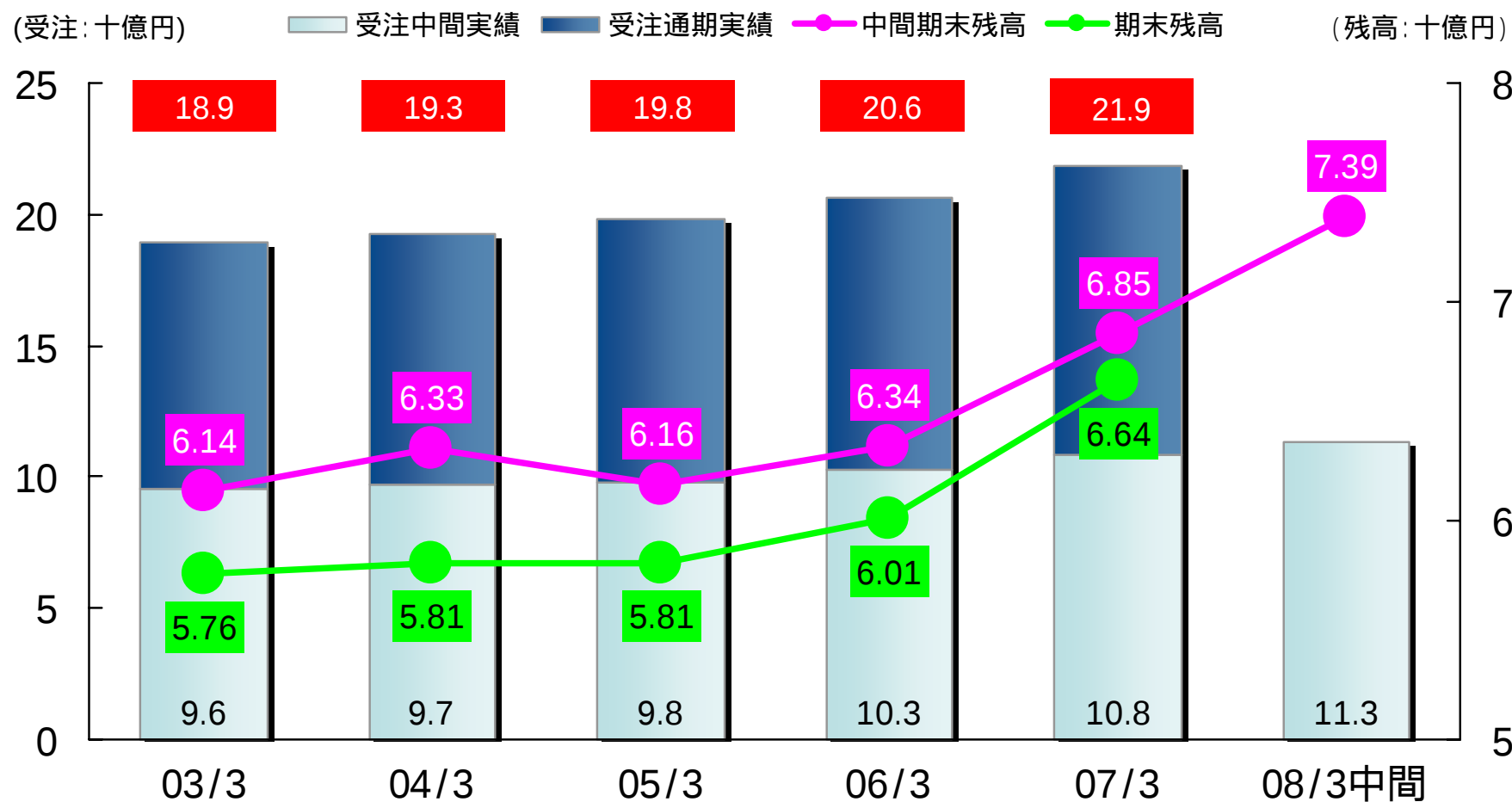
営業利益増減要因(08年3月期中間)

TOYOShutter



受注実績 & 受注残高推移

TOYOShutter



2008年3月期 中間 キャッシュ・フロー計算書の概要

営業活動CF:仕入債務の減少

投資活動CF:固定資産の取得による支出の増加

財務活動CF:長期借入金の返済、配当金の支払

(単位:百万円)

	07/3中間	08/3中間
営業活動によるキャッシュ・フロー	931	868
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5	▲62
フリー・キャッシュ・フロー	926	806
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲472	▲470

上期トピックス



買収防衛策の導入 : 事前警告型 (独立委員会勧告型)

ISO 9001:2000認証取得 : 生産製品本部技術部、奈良工場

営業拠点の開設 : 神奈川県平塚市に湘南営業所を開設 (今年7月)

新商品の発売 : スリム軽量電動シャッター「カルーナS」、
スプリング併用式電動シャッター など

主な売上案件 : 川崎コストコ商業棟、東京医科歯科大学、東芝浜川崎
など

目 次



2008年3月期 中間決算概況

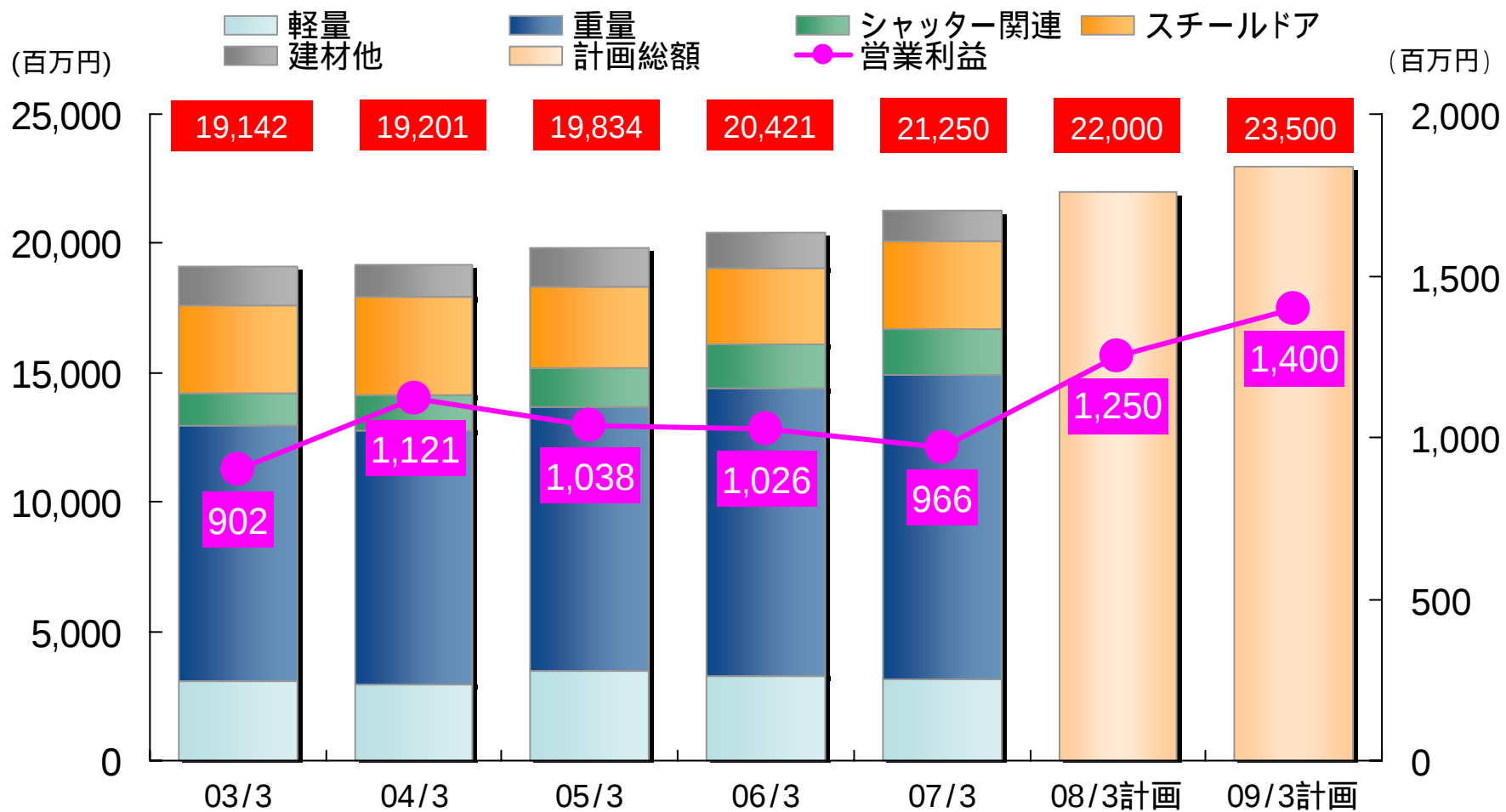
2008年3月期 業績計画

中期経営計画 戦略の推進状況

参考資料: 東洋シャッターについて

業績推移と計画

TOYOShutter



2008年3月期通期業績計画

TOYOShutter

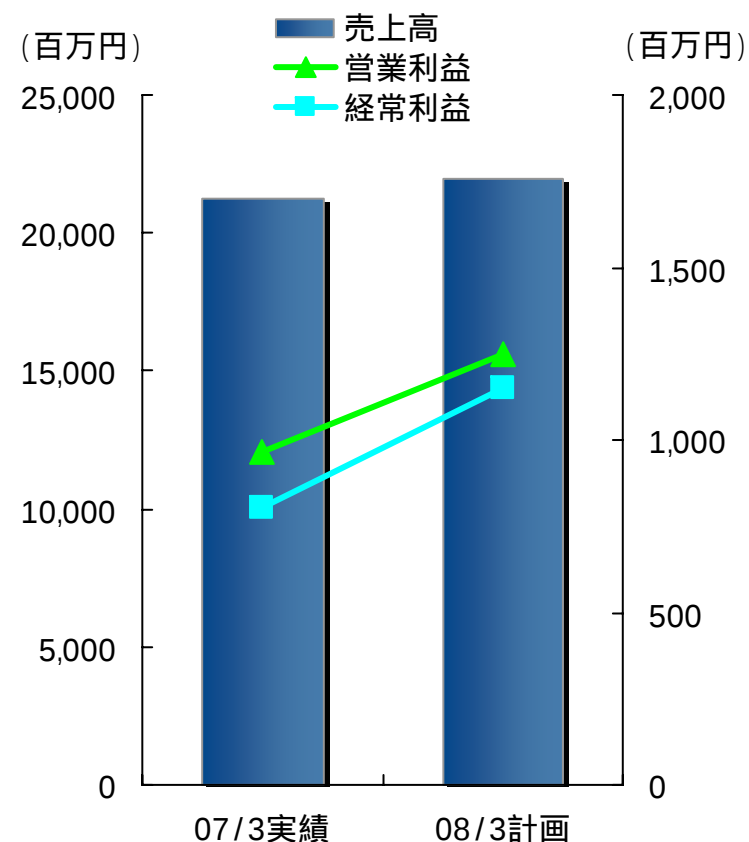
08/3通期の計画数値は据え置き

- ▶ 高水準な受注残により、売上計画を達成見込み
- ▶ 採算重視の営業により利益率改善を目指す
- ▶ 軽量シャッター、SDの強化を継続
- ▶ 厚生年金基金代行返上益1,900百万円

(単位:百万円)

	07/3 実績	構成比 (%)	08/3 計画	構成比 (%)	前年 同期比 (%)
売上高	21,250	100.00	22,000	100.00	3.5
営業利益	966	4.55	1,250	5.68	29.3
経常利益	805	3.79	1,150	5.23	42.8
当期純利益	744	3.50	2,990	13.59	301.7

- 建築基準法改正の影響は不透明なため、目標は変更しない
- 住宅着工面積減少の影響は少ない

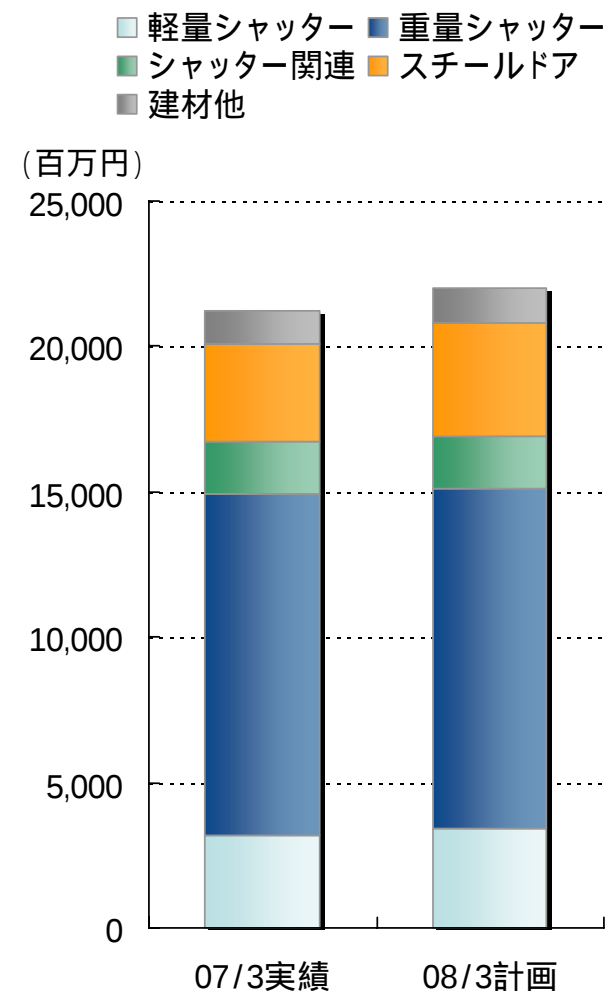


2008年3月期通期業績計画

TOYOShutter

(単位:百万円)

	07/3 実績	08/3 計画	前年同期比 増減
売 上 高	21,250	22,000	3.5%
軽量シャッター	3,151	3,400	7.9%
重量シャッター	11,780	11,700	▲ 0.7%
シャッター関連	1,781	1,800	1.1%
スチールドア	3,374	3,900	15.6%
建 材 他	1,162	1,200	3.3%
営 業 利 益	966	1,250	29.3%
営業利益率	4.5%	5.7%	1.13pt
経 常 利 益	805	1,150	42.8%
当 期 純 利 益	744	2,990	301.7%



今期の重点的な取組み



1. 営業拠点新設の検討

- 半期に2店舗のペースで空白地帯へ進出
- 09/3期までに10店舗新設の予定

【上期】湘南営業所開設(7月)

【下期】建築基準法改正の影響を見つつ、慎重に対応

2. 過去の施行実績の掘起しと、これから詳細な実績データの蓄積による、メンテ事業の拡大

今期の重点的な取組み



3. 戦略的に当社の成長に資する案件の獲得

4. 奈良工場のレイアウト変更とISO取得に向けた効率的な作業と安定的な製品作り

【上期】奈良工場・技術部において、ISO9001:2000の認証を取得(8月)

5. 海外駐在派遣に向けた取組み

目 次



2008年3月期 中間決算概況

2008年3月期 業績計画

中期経営計画 推進状況

参考資料: 東洋シャッターについて

新中期経営計画『レボリューション3』

TOYOShutter

経営ビジョン

- すべてはお客様の笑顔と満足のために
- 感動と感激を迅速に提供できる企業と社員
安全、安心、健康、快適、感動の提供
社会に貢献する企業と社員

経営戦略

- 新たな発展へ向けて基盤作りを目指す
- 継続的な「大胆な改革と組織の活性化」



中期経営計画



『レボリューション3』： 2006年4月～2009年3月

■ 組織改革による意思決定の迅速化と組織の強化

- ・ 執行役員制度と本部制導入による意思決定の迅速化による収益機会の増大を図る。
- ・ 危機管理・内部統制体制施行による組織体制強化。

■ 業容拡大および効率化のための投資

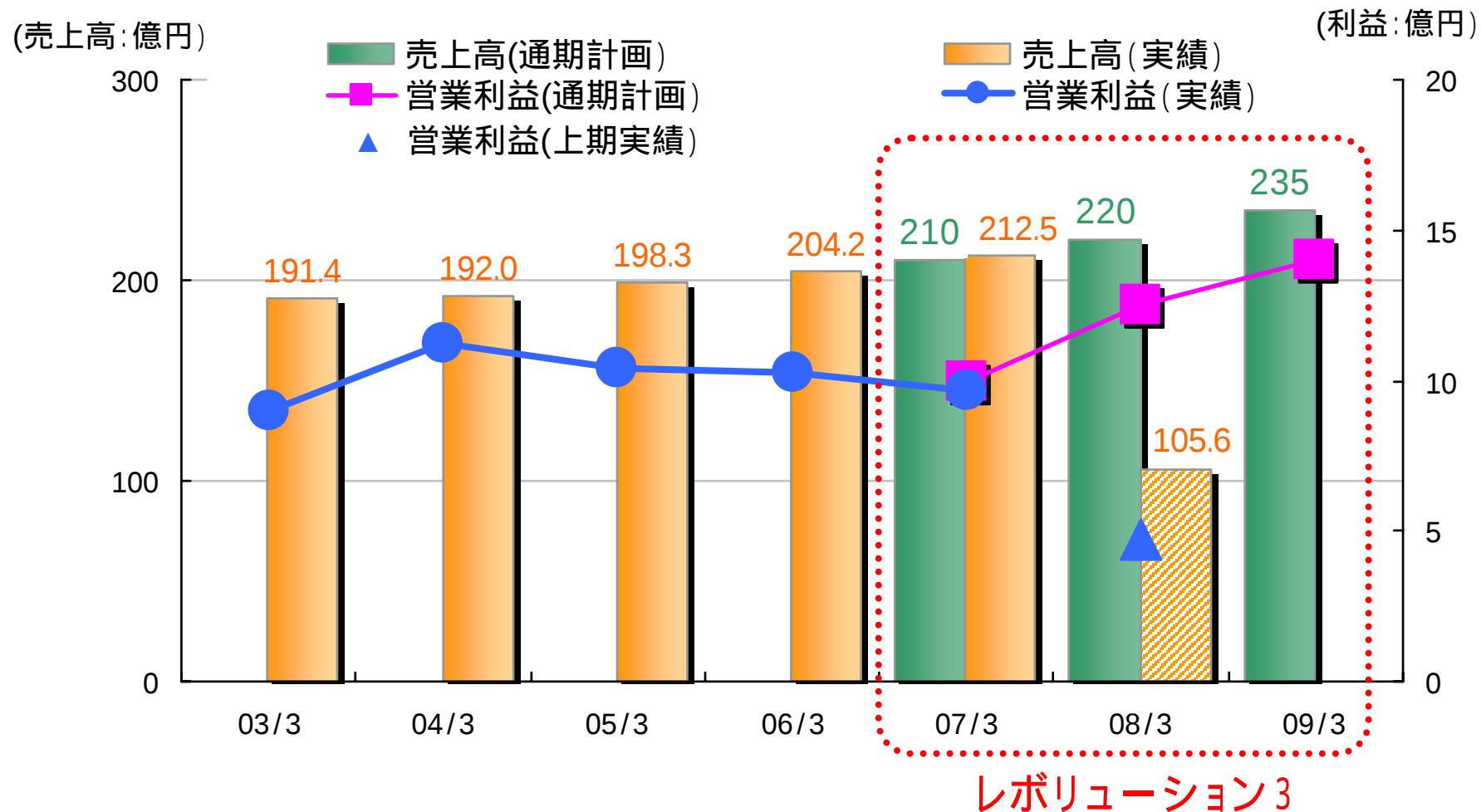
- ・ 生産設備への積極投資による生産効率増大、経費削減。
- ・ 効果的な営業拠点見直しによる営業の質的強化を図る。
- ・ IT投資による会社経営の効率化。

■ リテール営業の更なる強化

- ・ 従来に引続きリテール営業の基盤強化による収益機会の拡大。
- ・ スチールドアのリテール営業での積極展開による収益機会の拡大。

数値目標

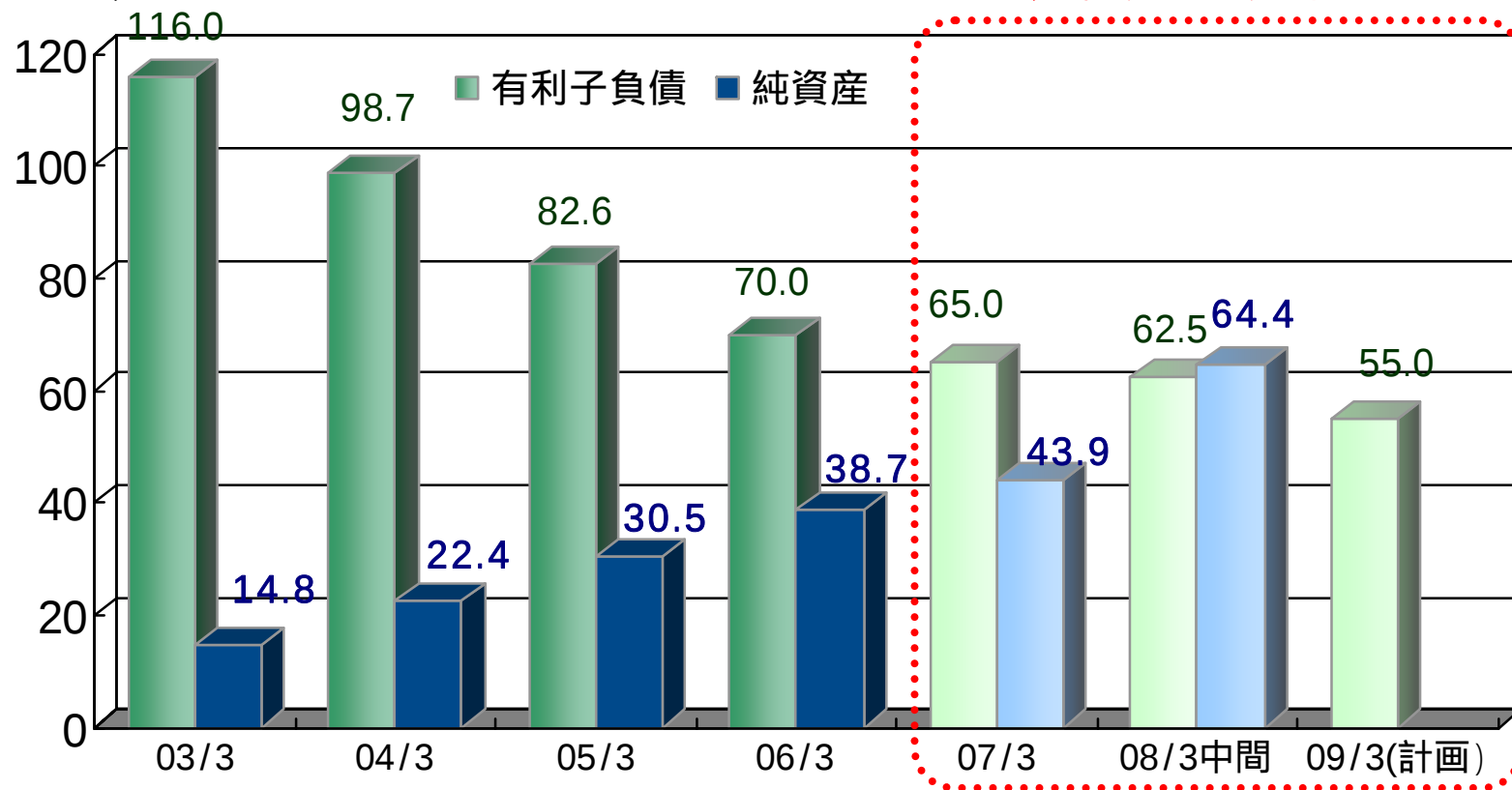
TOYOShutter



期末有利子負債・期末純資産の推移

(単位: 億円)

レボリューション3



自己資本比率

8.0%

12.2%

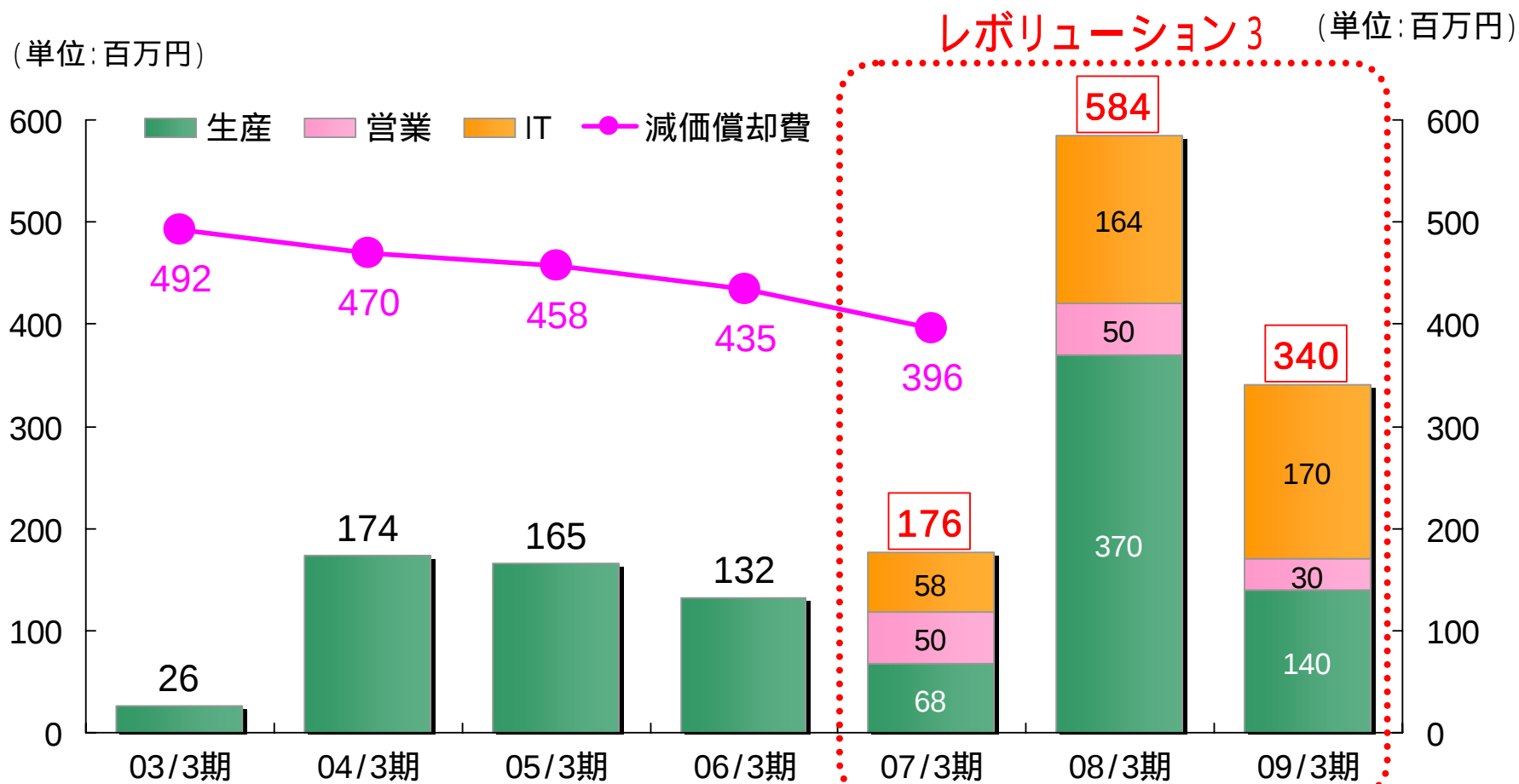
16.7%

22.0%

22.4%

33.0%

設備投資額・減価償却費の推移



投資にはリースの実行額を含んでおります。

07/3～09/3の計画 総額 1,100百万円

設備投資計画(2008年3月期～2009年3月期)

生産

- 既存設備の更新
- 研究開発
- 工場内レイアウトの変更

営業

- 新店舗の開設
- 既存店舗の効率的配置
- 設計の効率化

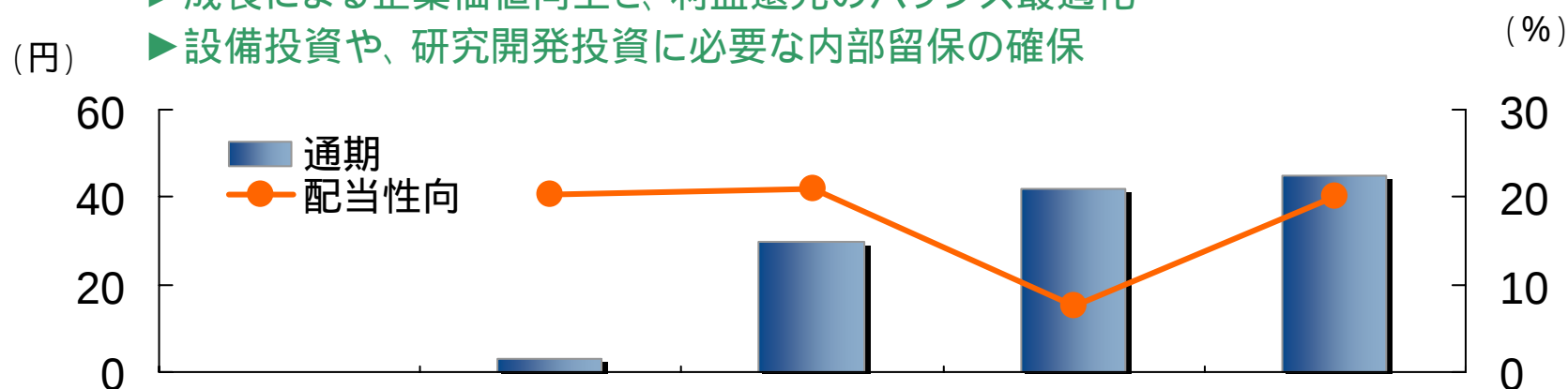
IT

- 基幹システムの更新
- PC導入数の増加

継続かつ安定した配当を実施

08年3月期中間：期初計画通りの一株18円に決定

- ▶ 成長による企業価値向上と、利益還元のバランス最適化
- ▶ 設備投資や、研究開発投資に必要な内部留保の確保



	05/3実績	06/3実績	07/3実績	08/3予想	09/3予想
通 期	-	3円(併合前)	30円	42円	45円
配 当 性 向	-	20.3%	22.8%	7.5%	20.0%

- ◆09/3については株数を現状のままと仮定し、配当性向を20%と固定して試算。
- ◆08/3については代行返上益を除いた配当性向を20%として試算。
- ◆08/3の特別利益1,900百万円は自己資本の充実に当てます。

目 次



2008年3月期 中間決算概況

2008年3月期 業績計画

中期経営計画 戦略の推進状況

参考資料: 東洋シャッターについて

会社概要

The logo for TOYO Shutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized green shutter icon above the "O" in "Shutter".

商 号	東洋シャッター株式会社
設 立	1955年9月10日
資 本 金	18億3,820万円
株式上場	東京証券取引所(市場第1部 No.5936) 大阪証券取引所(市場第1部 No.5936)
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代 表 者	代表取締役社長 藤田 和育
従業員数	683名(9月末連結)
事 業 所	2本社、13支店、1営業部、68営業所・メンテナンスセンター、3工場 その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場

沿革



1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制となる
1975年12月	奈良工場を新設し、大阪工場・忠岡工場を集約
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併。九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖する
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2002年 5月	『私的整理に関するガイドライン』に基づく再建計画成立
2003年 7月	大阪市中心部南船場に本社移転
2006年 2月	『私的整理に関するガイドライン』に基づく再建計画終了
2006年 2月	新中期3ヵ年計画「レボリューション3」を策定

決算数値の推移



(単位:百万円)

	03/3期	04/3期	05/3期	06/3期	07/3期
売上高	19,142	19,201	19,834	20,421	21,250
営業利益 (構成比)	902 (4.7%)	1,121 (5.8%)	1,038 (5.24%)	1,026 (5.02%)	966 (4.55%)
経常利益 (構成比)	342 (1.8%)	917 (4.8%)	883 (4.46%)	881 (4.31%)	805 (3.79%)
当期純利益 (構成比)	1,027 (5.4%)	765 (4.0%)	816 (4.11%)	823 (4.03%)	744 (3.50%)

免責事項



この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。